「伊藤真の考え抜く力」

著者：伊藤 真
出版：ＰＨＰ文庫
発行：2014 年 12 月３日



著者は弁護士で、自らの考えを「伊藤メソッド」と称し、司法試験の対策のための『伊藤塾』を開き多くの後輩を輩出している。現代人が欠く『思考力』をテーマに、それを鍛えるためのメソッドを 90 にまとめられている。

そのメソッドは以下の５つの段階に分類されていて、大変読みやすい。

ステップ１－いつも「考える」を意識せよ
ステップ２－シンプルに考えるクセをつけろ
ステップ３－「論理的な思考」をすっ飛ばすな
ステップ４－「ベターな判断」でスピードを上げろ
ステップ５－「わかりやすさ」で結果を出せ

現代の若者は、高度情報社会に突入したこともあるのか、ますます『答え』に固執する傾向にある。何かわからないことがあればすぐにスマートフォンなどの情報端末を利用し、インターネットから情報を手に入れようとする。そのようにして自ら『答え』を探し当てればまだ良いのだが、高校現場ではわれわれ『先生』にすぐ聞く傾向がある。それは高校現場で安易に『答え』導きこうとする指導の弊害であるとも言えるが、社会で何が必要とされているかをもっと考えさせる必要があると感じる。

著者も現代の若者の「思考停止」状態を嘆いている。先行きが不確実な時代、現実社会を乗り越えて行くために必要なのは、「模範解答を知っているかどうか」ではなく、「徹底的に考えて解答を自ら創りだせるかどうか」と説いている。目の前の「答えのない問題」に対し、いかに自分の頭をフルに使って、最善の解決策を見つけて前に進んでいけるか。模範解答より徹底的な思考力。「考え抜く力」とは、われわれ必須の「現実突破能力」と呼びかけている。

またメソッド中には、『パレートの法則』など商業高校で勉強するような用語も出てきて理解が深まる。先ほど述べた通り、現在の教育はどこか「解き方学習」に囚われすぎており、『答え』がないと、習う側はもちろんのこと、

教える側も不安になってしまう。『キャリア教育』を推し進めていく中でも『導き学習』からの脱却が謳われている。

この本を読んで、『考え抜く』ことの重要性と必要性を少しでも感じてもらえればと考える。

最後に、それぞれのメソッドの終わりにその内容のポイントが挙げられており、読み手への励ましにも聞こえ、元気が出る。そのいくつかのポイント（アドバイス）を挙げ、今後の自分への励ましにしたい。

『安易な答えに飛びつくな！』
『考えれば考えるほど可能性は広がる』
『新しい答えを作り出せる人が成功する』
『勉強は記憶するためだけにやるものではない！』
『つねにプラスの可能性で考えてみよ』
『データは必ずしも事実であるとは限らない』
『つねに自問自答を繰り返し、常識的なことも疑ってみる』
『選択肢は１つではなく３つ用意しておく』
『迷ったときは直感を信じて行動すること』
『真理は必ずシンプルで美しいものであるべきだ』

起業教育研究会　企画委員
滋賀県立大津商業高等学校　商業科教諭　柳垣 弘樹